

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	BLUE PLANETS		
○保護者評価実施期間	R6年12月2日		R6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	90	(回答者数) 67
○従業者評価実施期間	R7年1月6日		R7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	R6年12月2日		R6年12月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	90	(回答者数) 75
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士が主に訪問支援を行っており、専門的な視点から観察し、助言を行っている。また、お子さまに合わせて言語聴覚士も一緒に訪問している。	園や学校といった集団適応や社会性の発達において、具体的な支援方法や環境調整について、現場の先生と一緒に検討している。また、支援の技術など最新情報を収集し、研修に参加している。療育に関する書籍を定期購入し、スタッフで共有している。	今後も継続して、専門性の高いスタッフが訪問し、お子さまの特性に応じた具体的な支援について助言していく。また、最新の情報を得て、研修に参加して、事業所内研修を行っていく。
2	専門性の高いアセスメント(フォーマル/インフォーマル)	知能検査の結果などを活かして、訪問先施設で活用できるよう助言を行っている。また、新しいアセスメントなど最新情報を収集し、研修に参加している。内容によっては研修後に伝達講習をしている。	今後も最新の情報を得て、研修に参加して、事業所内研修を行っていく。
3	関係機関との連携(医療機関/保育園/幼稚園/学校など)	知能検査などのフォーマルな検査結果を踏まえ、訪問先施設での様子を観察し、活動内容や学習内容、集団適応、ソーシャルスキル等の助言を行っている。また、保護者さまの了解のもと、主治医へ訪問の結果報告を行っている。必要に応じて指示受けし、訪問支援を行っている。	今後も関係機関と連携して、様々な視点から集団適応ができるため方法や配慮などを検討し、円滑な連携に努めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者が多く、訪問の頻度が少ない。マンパワーが足りない。	利用者の数に対して、訪問支援員が1名で対応している。訪問支援員は児童発達支援の児童指導員と兼務のため、従事する時間が限られている。	訪問支援を終了してもよさそうなお子さまは、保護者と相談のうえ、終了していく。また、マンパワー不足の解消のため、支援員の増員を検討していく。
2	児童発達支援や放課後等デイサービスと比較すると、SNSを用いた支援(ペアトレなど)の情報発信が弱い。	訪問支援で保護者さまが使用する支援(ペアトレなど)が少ない。ペアトレについては、個別での相談や、書籍の紹介を行っている。	訪問に関する連絡だけでなく、必要性に応じて支援技術の情報発信も行っていく。
3	児童発達支援や放課後等デイサービスと比較すると、SNSを用いた活動報告や様々な訓練(避難訓練など)の報告周知が弱い。	訪問支援において、活動報告はプライバシーの問題や訪問先施設の事情もあり、実施していなかった。	活動内容については、自己評価の公表をしているので、確認してもらおう。また、今後はSNSを用いて、様々な訓練(避難訓練など)の情報を発信していく。